

月刊 利根日石新聞
2009年11月1日創刊 令和4年6月号

第000153号
発行 利根日石株式会社 TEL 0278-24-1635
本社販売管理課 FAX 0278-23-7980



これから「梅雨」の季節がやって来ますね。一番に困るのは洗濯物が乾かないこと! 浴室もジメジメしてカビの原因にも...。雨の日ちよとゆう気分ですが、自分の好きな事で過ごせば良いですね。本をじっくり読んでみたり...。自分の趣味で過ごせば雨の日も安らげる時間にはなります。

最近、夕飯の時にTVを見ながら食べているのですが... おかずが粗末なのが『孤独のグルメ』とか『居酒屋新幹線』などのドラマの中で行ったお店の料理を、あたかも堪能しているような感じで食べています(笑)... (行儀悪いですが) このコロナ禍で「外食も呑んべえ会も行けず」、こういったドラマの中で、遠方の有名な郷土料理や人気店の食べ物、地酒などを知って、家に居ながら旅行に出かけている様な気分になります。やと感染防止対策も和らげてきています。対策を怠らずに、好きな所に出かけておいしいご当地の料理を堪能したいですね!

水戸黄門の合唱が、TVの音もかき消す時期になり、畑も庭も草刈り、繁忙期です



いきなり家のまわりの風景が、もこもこ緑になりました。先日家の脇を草刈機で刈っていた時、突然キジの♀が飛び立ち、ビックリしました。そこには、かわいらしい卵が5つ。草刈りの音も大きいし、たまたま自分に追って来て怖かったよね。ギリギリまで頑張ってたんだ〜 ごめんよ〜 ごめんよ〜 卵たいじょう子かとも心配。

その日の夜、懐中電灯で照らして、覗いてみると、しっかり親鳥が卵をあたためていました!! まわりも刈り取ってまはだかになっちゃって、戻ってきてくれたんだ〜 ありがと〜 早く草のびておくれ、と思いつつ、毎日覗いてます。



「5分でわかる! 合成燃料」トヨタタイムズ

2022.05.30記事より

実を言うと毎月、月末が近付くと憂うつです。この利根日石新聞の原稿の締め切りが近付くからです。予め書くことが決まっている場合は、ちょこちょこ書きながら、月末には余裕をもって仕上げられるのですが、今日のように全くネタが浮かばず、頭の片隅で考えながら中々決まらず、でも確実に日は進み、積み重なる月末の業務もこなしながら、あー! マズい、最後の週末も何も出来なかつた! ヤバイ!!

と焦っていた5月30日に豊田自動車のWEBメディア「トヨタタイムズ」に、「エンジンで脱炭素!? EVだけじゃない、もう1つの選択肢」の特集記事が掲載されました! まさに役に船!! トヨタエン、有り難うございます! という訳で今回はこちらの記事のご紹介です。「注目技術も簡単解説 5分でわかる合成燃料」という副題のとおり、カーボンニュートラルへのアプローチとして注目を集める合成燃料について分かりやすく説明しています。

合成燃料とは、CO2と水を原料に合成して作られる燃料で、燃焼時にCO2は排出するものの、そもそもCO2も原料としている為、排出量は実質ゼロ(カーボンニュートラル)とみなされます。組成が従来の原油に似ていて、ガソリンを始め、軽油や灯油等を作ることも出来ます。

一昨年10月の臨時国会で当時の菅総理が発表した「2050年カーボンニュートラル」宣言、その後この1年半、水素や再エネを中心とした脱炭素技術に関する記事は、新聞紙面に載らない日がないくらい注目されています。中でも電気自動車(EV)は米テスラや中国メーカーがけん引役となり、世界中で販売台数を伸ばしています。トヨタ自動車も昨年12月にEVの投入車種を大幅に増やす記者発表を行いました。ただし、トヨタにとってEVはお客様への選択肢の一つであり、常々豊田社長が(というより自動車工業会の豊田会長として)話しているとおり、カーボンニュートラルへのアプローチは一つではなく、特に電源構成で火力がメインの日本では脱炭素への貢献はあろうか、電力不足も招きかねないという警鐘を鳴らしています。(利根日石新聞 令和3年6月号参照)

そこで今回の特集記事です。詳しくは直接WEBページを見て頂きたいのですが、先ず、この時期にこの特集記事が組まれたのにも訳があるように感じます。というのも、今年3月に開幕したスーパー耐久シリーズのST-Qクラス、これは用途中の車両用に昨年新設されたクラスで、世界初の水素エンジンを搭載したカロラが走行した事で注目を集めました。当初はカロライヤトヨタ2台のみのエントリーでしたが、今年はい他のメーカー(マツダ、スバル、メルセデス)も加わり5台が走行、その中の2台(トヨタGR86とスバルBRZ)は合成燃料で走っているのです。さらに6月4日~5日に開催される第2戦 富士スピードウェイ24時間耐久レースには日産からも2台がエントリーし、盛り上がりを見せています。

話を合成燃料に戻しましょう。合成燃料のメリットとして、以下の5点が上げられています。

- ① エンジン車で脱炭素が出来る... エンジン搭載車は今後も走り続ける。IEAによれば、乗用車販売の中で2030年では91%、2040年でも84%はエンジン搭載車とのこと。脱炭素への効果は大きいです。
- ② 大型モビリティに強い... 液体燃料の為、エネルギー密度が高いため飛行機や船舶、大型車両にも向いています。
- ③ 既存のインフラが使える... 備蓄タンクやスタンド等そのまま使えます。充電インフラの整備には14~37兆円ものコストがかかります。
- ④ 災害に強い... 扱い易く、長期保存も可能なため停電時の発電用燃料や、豪雪時の立ち往生にも活用できます。
- ⑤ 暖房にも使える... 灯油も作れるのでヒーター、暖房機、給湯器にも使えます。

電気の電源構成を始め、エネルギー環境は国によって大きく異なります。甚大な被害の原発事故を起こしてしまつた日本で従来のような原発再稼働は難しい。ヨーロッパのように地続きではないので、他国からの電力融通も難しい日本では、技術力を活かして水素や合成燃料を中心としたエネルギー環境を作ることが現実的ではないでしょうか?

